年	農林水産省と蚕糸試験場	その他のできごと	生糸生産量（t）	生糸輸出量（t）	生糸輸入量（t）	桑園面積（万 ha）	養蚕戸数（100 戸）	収繭量（100t）
1859 安政 6		横浜・長崎・箱館開港						
1873 明治 6		官営富岡製糸場の開設						
1874 明治 7	内務省蚕業試験掛を設置							
1878 明治 11		岡倉に片倉製糸の前身「垣外製糸」が設立	1,360	872				
1884 明治 17	農商務省蚕病試験場と改称	「高山社」設立						
1887 明治 20	同・蚕業試験場と改称		3.019	1,888				
1891 明治 24	同・仮試験場蚕事部と改称					25.0		
1893 明治 26	同・蚕業試験場と改称	富岡製糸場を三井に払下げ	4,913	2,229				
1894 明治 27		日清戦争勃発～1895 年				25.2		
1895 明治 28		生糸検査所法成立 横浜生糸検査所の開設	6,409	3,486		26.4		
1896 明治 29	同・蚕業講習所と改称							
1899 明治 32	同・東京蚕業講習所と改称 京都蚕業講習所の設置		7,300	3,600		30.5		940.0
1904 明治 37		外山亀太郎氏による一代雑種利用の提唱 日露戦争勃発～1905 年	7,488	5,795				
1909 明治 42		日本の生糸生産高が世界 1 位になる。同時に世界一の生糸輸出国となり、以後30年間世界一を維持	10,883	8,082		42.0		1360.0
1911 明治 44	同・原蚕種製造所の設置 本所…東京（高円寺）支所…綾部・前橋・福島	蚕糸業法の制定	12,805	8,670		45.0		1600.0
1912 明治 45	松本支所の設置		13,669	10,262				
1913 大正 2	一宮・熊本支所の設置		13,429	12,137		44.0		1,720.0
1914 大正 3	同・蚕業試験場と改称 【職員数：82 名（技師 20、技手 48、書記 14）】	一代雑種の蚕種配布開始 第一次世界大戦勃発～1918 年	14,085	10,289		44.6		1,650.0
1918 大正 7		日本でレーヨンの生産開始	21,733	14,607		50.0	19,000	2,560.0
1925 大正 14	農商務省を分割し農林省の設置		31,066	26,307		54.5	19,400	3,180.0
1927 昭和 2	農林省本省に蚕糸局の創設		37,057	31,306		59.0	21,000	3,400.0
1930 昭和 5			42,619	28,646		70.0	22,000	4000.0
1931 昭和 6	小渕沢・沖縄飼育所の設置					67.6	21,100	3,640.0
1934 昭和 9	蚕業試験場管制の改正 明石・宮崎支場、新庄・飯坂出張所、台湾飼育所の設置	原蚕種管理法の公布 1859年よりこの年まで、およそ75年間にわたり、日本の輸出品の第 1 位は生糸	45,200	33,132		61.7	19,800	3,270.0

年	農林水産省と蚕糸試験場	その他のできごと	生糸生産量（t）	生糸輸出量（t）	生糸輸入量（t）	桑園面積（万 ha）	養蚕戸数（100 戸）	収繭量（100t）
1937 昭和 12	農林省蚕糸試験場と改称 一宮桑園を廃止、武豊支場を設置		41,800	28,700		55	18,100	3,220.0
1938 昭和 13		米国デュポン社がナイロンを発表	43,152	28,674		54.3	16,900	3,810.0
1941 昭和 16		第二次世界大戦勃発	39,294	8,565		48.9	15,800	2,610.0
1945 昭和 20	沖縄・台湾飼育所を廃止	第二次世界大戦敗戦終結	5,225	0		24.0	10,000	840.0
1946 昭和 21	指導部を設置	生糸輸出の再開（横浜） 蚕糸業復興５か年計画策定	5,662	5,185		18.4	8,760	680.0
1947 昭和 22	四国飼育所、岡谷製糸試験所、小千谷桑園を設置	蚕業技術指導所の設置	7,186	1,036		17.1	8,200	530.0
1948 昭和 23	山川飼育所設置	第７次国際養蚕会議、及び第１回国際絹会議がフランスで開催	8,659	4,802			8,270	640.0
1950 昭和 25	山川飼育所屋久島分場設置 【職員数：949 名】		10,620	5,600		17.5	8,350	800.0
1958 昭和 33	機構整備 絹繊維部新設 ４支場に栽桑、養蚕、蚕品種改良、土壌肥料、及び病理の各研究室の設置 前橋・武豊・明石支場、四国・山川飼育所の廃止	自動繰糸機の完成	20,014	2,805		19.0	7,300	1,100.0
1960 昭和 35	【職員数：855 名】	国民所得倍増計画策定	18,048	5,300		16.6	6,440	1,110.0
1967 昭和 42		和装ブームで生糸の輸入量が拡大、輸出量を上回る	18,926	224	1,800	16.1	4,670	1,140.0
1972 昭和 47	小淵沢原蚕種試験所の廃止 蚕品種保存、人工飼料育、農薬残留の３研究室新設 蚕糸園芸局の廃止、農蚕園芸局の設置	生糸国内消費量が増え、輸入量増大	19,137	21	10,118	16.4	3,300	1,050.0
1978 昭和 53	農林水産省の設置		16,012	0	5,030	13.0	1,870	770.0
1980 昭和 55	農林水産省蚕糸試験場をつくばに置く 【職員数：559 名】		16,150		3,000	12.0	1,650	730.0
1983 昭和 58	蚕糸試験場組織再編 ３支場の廃止・移管 本場組織の再編など 【職員数：261 名】		12,457		2,400	10.0	1,280	610.0
1987 昭和 62		片倉工業 (株) 富岡製糸工場閉鎖	7,864		1,957	7.9	740	350.0
1988 昭和 63	同・蚕糸・昆虫農業技術研究所を設置 （蚕糸試験場を母体に設置） 【職員数：220 名】		6,862		1,457	7.0	620	300.0
1997 平成 9		「蚕糸業法」及び「製糸業法」の廃止 （蚕糸業を支える基本法の廃止）	1,900		2,054	0.59	63	25.0
2001 平成 13	独立行政法人・農業生物資源研究所を設置 （蚕糸・昆虫農業技術研究所は合併統合され、蚕の文字が消える）		432		1,800	0.48	27	10.3
2011 平成 23	蚕糸試験場創立 100 周年記念 OB 会	東日本大震災発生（３月１１日）					6	2.2
2013 平成 25							5	1.7

参考：『蚕糸試験場創立 50 周年記念 研究業績沙録集』
監修：河上清